

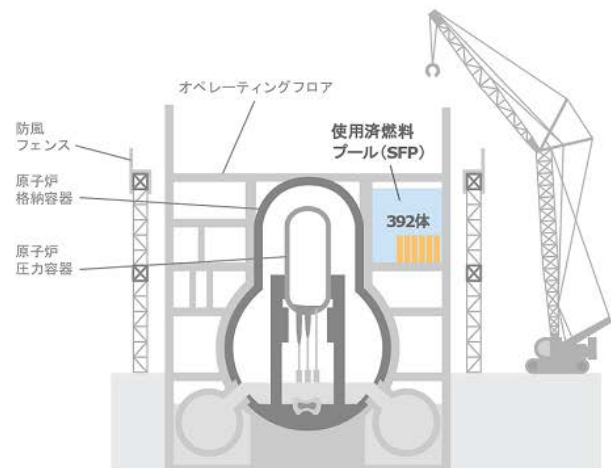
核燃料冷却プールからの取り出しの現状

(2019年2月13日現在)

○【1号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事】 <https://bit.ly/2SHgoZO>

- ・2017年12月に原子炉建屋を覆う建屋カバー解体が完了
- ・2018年12月にガレキ撤去作業時のダスト飛散抑制のための防風フェンスが完了。
- ・現在は、使用済燃料プールからの使用済燃料等の取り出しにむけて、原子炉建屋上部のガレキの撤去作業を実施。使用済み核燃料：392本、汚染水：2300トン。

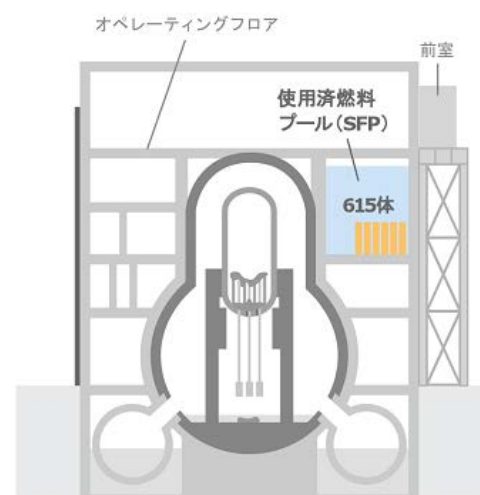
1号機の状況



○【2号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事】 <https://bit.ly/2RY4c2i>

- ・2号機原子炉建屋屋上のガレキや外周部立ち上がり部材等の撤去を2017/12/25に完了。遠隔操作重機作業時のダスト測定用のダストモニタを2018/1/19に設置。
- 2018年6月に、原子炉建屋西側の外壁開口工事が完了。現在は、原子炉建屋上部の解体にむけて準備中。使用済み核燃料：615本、汚染水：7750トン。

2号機の状況



○ 【 3 号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事】 <https://bit.ly/2Bvl2jK>

・2017年7月からドーム屋根設置作業をし、2018年2月に燃料取り扱い設備とカバーの設置が完了し取り出し準備中。使用済み核燃料：566本、汚染水：8820トン。



○ 4号機は燃料取り出し済み。

問題点：

- 3号機に関しては、東京新聞によると3号機の使用済み核燃料プールからの核燃料取り出しが、今年3月末から始まる。<https://bit.ly/2Ceuspw>
- 日刊工業新聞は、2018年3月に「福島第一3号機内部、がれき散乱 東電がドローン調査」<https://bit.ly/2WRwK1b>を報道している。河北新聞は、2018年07月に、「<福島第1>2号機建屋内部調査 最大線量毎時630ミリシーベルト」<https://bit.ly/2SFN4Tw>を、東京新聞は、2019年2月6日に、「2号機建屋上部の放射線量6分の1に それでも148ミリシーベルト」<https://bit.ly/2TASGeQ>と報道した。これらの報道を見ると、1・2号機建屋内の放射線線量は依然として高い。燃料棒の取り出しは現時点では簡単ではない。

福島第一原発の現状

<https://bit.ly/2GmS0a0>

福島第一の1週間 (2月20日~2月28日)

1号機 汚染水 2300トン
核燃料 392体(プール内)

水素爆発で重いコンクリート製のふたがずれ落ちた

格納容器
使用済み核燃料プール

冷却停止中

冷却装置

圧力抑制室

一部漏れ発見

溶け落ちた核燃料はコンクリートも溶かした可能性

圧力容器

1階南東エリアの搬入量が高く、最大5150トン/シーベルト

高濃度汚染水として漏出

約15度

ロボット調査で最大毎時12シーベルト計測

約21度

約21度

2号機 汚染水 7750トン
核燃料 615体

核燃料の取り出しのため、建屋上部の撤去を検討

5階の原子炉真上近くの床面で最大630シーベルト

作業用の開口部

約21度

約21度

水位が同じのため損傷の可能性大

ロボットで床を除染

1階で断片的に最大4400シーベルト

7階圧力容器直下は毎時15〜42シーベルト

大抵が圧力容器内の可能性(誤差大)

約20度

約18度

3号機 汚染水 8820トン
核燃料 566体

クレーンを覆うドーム形のカバーを設置

核燃料を取り出すためのクレーンを設置

約20度

約18度

水位6m強

ほぼ全量の核燃料が落下

格納容器の配管から漏出

1階の格納容器扉付近で高線量最大780シーベルト

無人重機でがれき撤去中

ロボット調査で溶け落ちた核燃料(デブリ)とみられる黒い物質やがれきを確認

4号機 汚染水 8350トン
核燃料 取り出し完了

建屋の解体は未定

他の建屋内の汚染水

1万590トン

浄化処理した水

セシウムとストロンチウムを除去

11万9327トン

主にトリチウムが残る

99万5765トン

放射能リスク 高 中 低

東京新聞 2019年2月13日より